

平成30年12月17日

各 位

会 社 名 マーチャント・バンカーズ株式会社
代表取締役社長兼 CEO 一 木 茂
(コード3121 東証2部)
問合せ先 取締役 CFO 兼財務経理部長 高 崎 正 年
(TEL 03-5224-4900)

再生医療事業に対する投資の取組みについて

当社は、投資会社として、平成30年12月3日、投資事業の今後の方針として、再生医療、AI、ブロックチェーンの3分野を重点的投資分野と定め、積極的に案件開発をすることをご報告させていただきました。

当社は、投資会社として、今後成長が考えられ、また、社会から必要とされる事業やサービスに対する投資を、積極的に行っております。

本日、活性化自己リンパ球療法・樹状細胞療法等の免疫治療を実施するための細胞培養加工工場（CPC）について、他社が、建設し、運営する事業に対して、マイナー出資でなく、主導的立場での投資に取り組んでいくことにつき、方針決定いたしました。本件につきまして、投資先等具体的内容を決定いたしましたら、速やかに、ご報告させていただきます。

この投資を行うことで、細胞培養施設の規模が大きくなり、効率化が図れ、これまで高額であった免疫治療の費用を低く抑えることの可能性が大きくなり、癌患者に対する朗報をもたらすことが出来ます。

そのアドバイザーとして、当社は木村秀樹医学博士を顧問として受け入れております。

木村秀樹医学博士は千葉県がんセンター 副センター長、千葉県がん診療連携拠点病院連携協議会長等の要職を務めた経験のある癌治療の専門家です。木村秀樹医学博士は2015年、第16回「世界肺癌学会議」において、免疫細胞療法での術後の5年生存率は従来療法の4.37倍になったことを発表されました。

今年、本庶佑医学博士がノーベル医学生理学を受賞したことにより、一般社会での「がん免疫療法」の認知度が高まりました。当社は、再生医療分野の中でも免疫細胞療法は将来性、社会貢献が非常に高い事業と捉えております。

また、細胞培養加工工場（CPC）との相乗効果が期待できるため、今後、免疫細胞療法に関する研究所やクリニックへの投資も視野に入れております。

以 上